

会議録【全文筆記】

会議名称	令和5年度第2回米沢市行政経営市民会議	
開催日時	令和5年10月16日（月） 午後1時30分～午後3時00分	
開催場所	米沢市役所 3階 庁議室	
出席者	（委員等氏名） 委員長 神原 祐哉 委員 青山 浩子 委員 岩崎 令子 委員 大竹 茂 委員 岸 弘行 委員 佐藤 幸治 委員 杉本 俊之 委員 鈴木 修 委員 高橋 郁子 委員 田中 明子 委員 中川 恵 委員 新田真有美	（所属団体等） 神原法律事務所 プラットヨネザワ株式会社 米沢観光コンベンション協会 山形おきたま農業協同組合 米沢公共職業安定所 連合山形置賜地域協議会 山形大学 米沢信用金庫 学校法人松原学園 ひばりが丘幼稚園 米沢商工会議所 米沢女子短期大学 公募委員
欠席者	（委員等氏名） 委員 伊藤 優子 委員 菊地 智	（所属団体等） 株式会社ニューメディア 山形銀行
事務局出席者	市長、副市長、総務部長、企画調整部長、市民環境部長、健康福祉部長、産業部長、建設部長、会計管理者、上下水道部長、市立病院事務局長、教育管理部長、教育指導部長、議会事務局長、選挙管理委員会事務局長、農業委員会事務局長、総務課長、財政課長、政策企画課長、教育総務課長、政策企画課長補佐、政策企画課経営政策主査、政策企画課主任（経営政策担当）、政策企画課主事（経営政策担当）	
会議次第	1 開会 2 委嘱状交付 3 市長あいさつ 4 委員自己紹介 5 委員長及び副委員長選出 6 委員長あいさつ 7 議事 (1)会議等の公開について (2)米沢市人口ビジョン改訂に向けたアンケート調査結果報告について (3)米沢市デジタル田園都市構想総合戦略について 8 閉会	
会議資料	R5 委員名簿（第2回） 次第 資料 1-1_会議等の公開について 資料 1-2_会議録の作成方法等について 資料 2-1_市民・大学生・高校生・転出者アンケート概要及び結果 資料 2-2_市民意識調査による課題の整理 資料 3_米沢市デジタル田園都市構想総合戦略（案） 参考資料 1-1_（市民）結婚・出産・子育て・就職に関する意識調査アンケート調査報告書	

	参考資料 1-2_ (短大・大学生・大学院生) 将来の進路に関するアンケート調査報告書 参考資料 1-3_ (高校生) 将来の進路等に関するアンケート調査報告書 参考資料 1-4_ (転出者) 転出者アンケート調査報告書 参考資料 2-1_第 2 期米沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略概要 参考資料 2-2_デジタル田園都市国家構想総合戦略概要 参考資料 2-3_デジタル田園都市国家構想交付金概要 参考資料 2-4_ 企業版ふるさと納税概要
会議内容	
【1～2 省略】	
【3 市長あいさつ】 今日はお忙しい中ご参加いただきまして誠にありがとうございます。ただいま、米沢市の行政経営市民会議の委員委嘱状を交付させていただきました。米沢市では私が就任する前は大きな課題が 3 つありました。1 つは、市立病院の改築であり、これは 11 月 1 日に開院するという運びとなりました。2 つめは、少子化が進んでいる中で、子どもたちが切磋琢磨してたくましく成長していくようにと小中学校の統廃合も市民にご説明したわけでありますけれども、新たな対応としまして適正配置・適正規模ということで中学校 3 校、小学校 8 校へ統合という計画を新たに作り、統廃合に向けて進めているところであります。そして、3 つめは大きな課題であったしっかりとした財政基盤については、現在健全な財政運営に努めているところであります。これも委員の皆様はじめ、市民の皆様のご協力、ご支援があったからこそ成し遂げたものと心から敬意と感謝を申し上げる次第であります。 さて、現状の米沢市を見てみますと、少子化にどのように対応していくか、この米沢の地域のまちづくりをどのように進めていくかということが大きな課題になっているわけでございます。そうした中であって、米沢らしく持続可能な地域づくりを進めていかななくてはならないということで SDGs 未来都市にも選定をいただきながら、地方創生からデジタル田園都市構想という国の方向性にしっかりと対応しながら持続可能な地域づくりに努めていきたいと思っているところであります。そのような中で様々な課題が地方に降りかかっており、山積する課題も多くあります。根本的には少子化の中でどのような行政運営をしていったらよいかということについて、ただいま委嘱状を交付させていただきました委員それぞれの専門的な見地に立ってご議論をいただきながら、あるべき姿についてご意見をまとめまして、これからの米沢の進むべきまちづくりについてしっかりと取り組んでまいりたいと考えておりますので、事務局から色々ご報告しながら、そして資料に基づいて検討を進めることをお願い申し上げる次第でございます。本当に厳しい状況はどこのまちにおいても変わりはありません。そうした中にもやはり「挑戦と創造」という思いを持って、米沢の新たな未来に向けて子どもたちのためにしっかりと取り組んでまいりたいと考えておりますので、何卒皆様のお力添えを賜りますことを心からお願いを申し上げさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。	
【4 省略】	
【5 委員長及び副委員長選出】 米沢市行政経営市民会議条例第 5 条第 1 項により、正副委員長を互選。委員長に神原祐	

哉委員、副委員長に中川恵委員が選任されました。

【6 委員長あいさつ】

ただいま、委員長にご指名いただきました神原です。よろしくお願いいたします。私は米沢市の南原地区出身で高校卒業まで南原から一步も出ずに育ちました。その後、東京に行きまして、色々あり米沢市にUターンし、開業して今日に至ります。子どもが小学校に通っていて子育てもしておりますので、そういった観点からの発言もできればしていきたいなと思っております。皆さんよろしくお願いいたします。

【7 議事】

（１）会議等の公開について

（資料 1-1、1-2 について事務局より説明）

委員長 ただいまの説明につきまして、特にご意見、ご質問がないようであれば、この会議は開かれたものにすべきかと思しますので事務局案のとおり会議を公開することとし、会議録及び配付資料についても事務局案で公開する取り扱いにしてよろしいでしょうか。
（異議なし）

委員長 それでは異議ないようですのでそのように決定いたします。

（２）米沢市人口ビジョン改訂に向けたアンケート調査結果報告について

（資料 2-1、2-2 について事務局より説明）

委員長 専門の委員にお聞きすべき内容が含まれるかなと思いますが、いかがでしょうか。

委員 子育てしやすい職場環境については、私も非常に思うところがあります。子どもが病気になったときに休みやすいような環境が大切ではないかなと思います。東日本大震災の時に感じたことなのですが、お子さんを安全に家に帰すために会社の方にお電話をいたしました。もうその連絡をする前にすでに次々にお迎えにいらっしゃった方もいましたが、企業によっては上司に相談してから迎えに行きますといった事例もありました。企業によって対応が違うということを感じた瞬間でした。また、小学校の仕事をしている方にお電話しましたら児童を送っている最中とのことで、ご自分のお子さんよりも、まずは目の前にいる児童の皆さんを安全に家に帰すためにそのようなお勤めもしていらっしゃると感心した次第です。

いろいろな企業があると思いますが、昔の考えを捨ててトップの方の考えをもう少し時代に合ったものに変えていく必要があるのではないかと感じています。働きやすい職場環境の中に病児保育の充実というものもありますけれども、病気になったお子さんを病児保育でお預かりするよりも、やはりお父さんお母さんが仕事を休んで、そしてお子さんの看病に当たられるのが一番理想だと常々感じております。

委員長 事務局に質問ですが、この資料 2-2 の（５）で「本市への愛着を持つ転出者は 6 割に及ぶ一方、U ターンの希望は 1 割」ということで、どの

タイミングの転出者に聞いているのかにも結構大きく左右されると思います。出ていってすぐの人に帰ってきますかと言っても多分帰ってこない人が多いのかなと思いますし、その辺りのデータはあるのでしょうか。

事務局

今回のアンケート調査の転出者におきましては、令和 5 年 6 月 15 日を起点として、そこから転出している方をさかのぼって 1,100 人抽出しておりますので、委員長のご発言の最近転出をされた方というのはこのアンケート調査の対象には含まれています。

委員長

令和 5 年の 6 月からさかのぼって無作為にという内容ですか。それとも時系列的に新しい人をということでしょうか。

事務局

無作為ではなく時系列的にさかのぼり対象年齢の方へアンケート調査を実施しました。

委員長

結果として、最近転出した人という括りになると思われるので、そこを数年前とかそういう母集団にするとまた違ったデータが取れるのかもしれないので、施策の確定という意味ではそういう調査もやってみてはどうかと考えるので、ご検討いただければと思います。

委員

今の委員長の質問とも関連すると思うので、参考資料 1-1 などの説明の時間がもしないのであれば、これについて簡単にご説明いただければと思いました。

事務局

本日、お配りしております参考資料 1-1 から 1-4 につきましては、資料 2-2 で掲載しているすべてのアンケート調査結果になります。それぞれ参考資料 1-1 は、市民アンケートとして 18 歳から 39 歳までの 1,500 人に郵送資料として調査を実施したもの、参考資料 1-2 は、市内の 3 大学の大学 4 年生、短期大学 2 年生及び大学院修士 2 年生の 1,300 人を対象にアンケート調査を実施した内容になります。参考資料 1-3 は、市内の 6 高校に通学する高校 3 年生全員を対象にアンケート調査を実施しておりまして、参考資料 1-4 は 6 月 15 日からさかのぼって 1,100 人の転出者を対象にアンケートを実施したものです。

それぞれ調査の内容については参考資料に記載しておりまして、回答の属性や回答の内容についてクロス集計を行うなど分析した資料を参考資料として 4 パターンおつけしているところです。

委員

資料 2-2 (4) の卒業後の進路についてというところで、上から 3 行目の「学生が本市に魅力を感じ、残ってもらえるような郷土愛の育成が求められています」ということでそのとおりだなと思いますが、今回この行政経営市民会議の資料を見たときに郷土愛の育成とかは結構難しい施策が求められていることになっていますが、具体的にこれから出てくる施策に落とし込みができそうなのかどうかというところをお伺いしたいです。

事務局

この後のデジタル田園都市構想総合戦略が具体的な今後の計画になっており、その中でこういったものやっていくかについてはまだ精査しきれてない部分がありますので、今後こういった方向で進めたいということをお話させていただくことになりますが、確かに委員のおっしゃったとおり郷土愛の育成というのはなかなか難しい面があります。これにつきましては、例えば小学校や中学校のうちから郷土愛を持ってもらうような取組みを教育委員会でも実施しておりますので、そういったものもさらに進めていくということやアンケートで地元の企業をあまり知らない学生が多いという声も聞こえていますので、地元の企業を分かってもらう取組みも必要なのかなと感じております。

私も今回のアンケート結果を見て思ったのは、やはり都会に対する憧れがどうしても高校生などは出てくるところはありますが、この結果の分析から将来的には戻ってきてもいいというご意見もございしますので、そのような部分をどう対応していくかがこれから重要になると思っています。幅広い企業や様々な職種がある環境をこの米沢でどこまでできるかというのはありますが、今回のアンケート結果を見まして若いうちから米沢に対する愛情を育成していくようなことを何とか実践していきたいと思っております。

委員

今回我々は整理した課題が施策に反映されているのかどうかをチェックするということなのか、そこまで厳密に求めるものではないのかその辺り整理していただけるとありがたいです。

事務局

市民や学生の方にアンケートを求めまして、このような集計結果だったことと課題の整理ということで一定程度の分析をさせていただきました。この課題の整理分析によって今後の市の施策を進めていきたいと考えております。冒頭市長からの話にもありましたが、各分野の様々な方がいらっしゃいますので、その視点でさらにこういったことがあればというご意見をいただければと思っております。

委員

私自身、和歌山県出身で長く京都で西陣織の織物に携わる仕事をずっとしていたので、それが実家に帰って同じような仕事があるかということやそういうのはなく、その仕事が好きだったってこともあってそのまま居続けた結果、今はなぜか米沢にいますが、何かしら外に出ることで経験することはたくさんあると思っていて、最初からいることが大事っていうよりは出たことで様々な経験を経て、何か持ち帰りたいって思う瞬間やいつか帰りたいというものを持っている人であれば、おのずとタイミングで帰ってくると思っています。私は出て戻ってくるUターンの方が、地域のためにもいろいろ力になるものがあるのかなと思っています。

委員

先ほど子育てしやすい職場の環境という意見があったところなのですが、うちの企業も最小限の人数でやっておりますので、出産は別ですが、子どもの病気でも短いお休みですと気をつけてねとか優しい言葉をかけられるのですが、少し長期になると顔は笑いながら心は土砂降りの雨が降るのかなという感じです。私が勤めた頃は、職場は仕事の一番多いところに人数配分をして多めの人員で仕事をしていましたが、今はと

にかく利益を上げなさいというところがほとんどで、最少の人数でいかに生産性を上げるかとなっていますから、子育てしやすい環境というのは本当にハードルが高くなっています。ぜひそのあたりを我々も含めて市のお力も借りながら、各企業の方に呼びかけて多少利益を吐き出してでも多めの人員を確保していただき、気持ちよく女性の方にも休んでいただいて、家事や子育てによる女性の負担を減らすことをみんなで助けながら知恵を絞っていければと思いますので発言させていただきました。

委員長

アンケートの取り方なども含めて発言いただければと思いますがいかがでしょうか。こういう取り方でこうしたらいいのではないかと、そういった視点があればと思います。

委員

プラットヨネザワ株式会社は観光推進機構で地域の観光づくりを作るという意味では、行政ともタッグを組みながら中や外へ向かって PR や施策を打つと言ったところがメインになるかと思いますが、データの取り方ということで、今回9月15、16日に360° よねざわオープンファクトリーというのを私が企画させてもらって運用したのですが、この時にアンケートを取りました。

私が担当ではないので、詳しくは把握してないのですが、紙とGoogle フォームを使ってアンケートを取りました。もちろん回ってもらったり、買ってもらったり、見学してもらったりした後に取ったアンケートです。タイミングという意味で、やはり何かを経験・体験してもらった後でなければ生きた意見はもらえないし、見学をした後だと見て知ってもらえている状態なので積極的に書いてくれていた印象があります。タイミングがとても大事だということとアンケートのQが長すぎると飽きてしまうということがあるので、簡潔にサクサク答えられるみたいなところを心がけていたと思います。人数というところは腕にリストバンドを巻いてもらって、その数を数えて何人来たかを把握してデータを収集していたりもししていました。もし参考になるようでしたら参考にさせていただけたらと思います。

地域の魅力づくりや郷土愛のところで個人的に思ったのは、私自身岡山県出身で高校まで岡山で過ごし、そのあと進学で東京に出て働いていました。3年くらい前に夫の地元が米沢だったので米沢に来まして、雪を3回くらい経験しました。J ターンという形ですが、3度雪を経験しても雪が厳しすぎて驚いています。郷土愛みたいなのは地元もそうですし、日本全国で言っても360° よねざわオープンファクトリーに限らずオープンファクトリーがとても注目されています。なぜかというと、まず子どもたちや学生が普段は開かれてない企業に実際に足を踏み入れて覗いて見学ができて、例えば職人さんから直接話を聞けるということが普段はできない経験です。アンケートでも直接でも聞く声として、とてもかっこいい仕事をしていたということを聞いたりして、とても希望だなと思いました。これを米沢市の大人全員で協力して、繰り広げて愛されるイベントになっていけば、きっとUターンも増え、出て行っても米沢でこういうことをしているということに誇りを持ってもらえるのではないかと考えたという感想も添えさせていただきました。

委員長 事務局の皆様にもやり方等をご検討いただいてということによろしい
でしょうか。

(3) 米沢市デジタル田園都市構想総合戦略について
(資料3について事務局より説明)

委員 デジタル田園都市構想総合戦略の位置付けについての確認の質問なの
ですが、国のまち・ひと・しごと創生がデジタル田園都市構想へと統合
されるので、本市としてもデジタル田園都市構想総合戦略を定めよう
という理解でよいでしょうか。

事務局 委員のおっしゃるとおり、国では、まち・ひと・しごと創生総合戦略
をこの度改めてデジタル田園都市の戦略に改定をしたところでございま
すので、本市としましてこれまで策定しております第2期の総合戦略
をデジタル戦略として改訂するものとなっているところでございます。

委員 作成していただいた資料の下線を引いてあるところが以前からの追加
した部分で削ったところは基本的にはなく、下線部分が足されていると
いうことでしょうか。

事務局 そのとおりです。

委員 先ほど子育てしやすい環境の整備ということが話題になっているところ
で、ご説明があった基本目標にも男性も積極的に家事や育児を行うこ
とができるようというところがあるわけです。もう今の時代の流れは、
男性も育児に参加するという時代の流れになってきているわけですね
けれども、今回のアンケート結果を見ると男性の家事育児への参加という部
分があまり多く意見がなかったと見ていたところでした。あまり旦那さ
んは家にいない方がいいのかなとこのアンケート結果を見ながら思った
ところもありました。やはり男性が育児に参加するという流れがない
と、今後の少子化対策にもならないと思っておりますので、率先してう
ちの組織は男性が100%育休を取っているというところを示せるような
取組みをすることが大事だろうと思っております。男性の育児休業、男
性の産休を進めていくけれども実際には半分も取れてないということでは
あまり説得力がないので、100%に近い取得率を実際に行っていく
いとなかなか広まっていかないのではないかと感じているところでござ
いました。

委員 幅広い分野からの考えとかは行政を挙げて様々な部署から縦横無尽に
取り組む必要があると思いますが、やはりこの人口減少というのは米沢
のみならず地方都市の一番の悩みだと思います。先ほどのアンケートな
どにもあったように、米沢市の公共交通網や集える場所が少なかったり、
市長の挨拶にもあったようにいろいろな地域の小学校がなくなると
いうような不安もあつたりするわけですが、その人が自主的に集い
合える場所や人など、そういう総合的な観点から人口減少を考えていか
ないとこのシミュレーションどおりに非常に人口が減っていくと思いま

す。

県内でも西川町の人口が1桁だけ増えたということは、町長が替わったら増えたというただ単にそういうことではないですけども、地域の方々は米沢の風土的に役所に対してものは言うけれど、どうもお客様のな自分は関係ないという意識もあるように感じます。例えば集落の獅子踊りのようなイベントも受け繋がれてきており、やはりそういう集い合える場所やお金をかけなくてもお祭りを大事にしていくということなど農村文化にも通じるものは多くあると感じています。

総合的な当局内でも横断的な考えであり、部長の方々は経験豊富な方ばかりですので、色々と寄せ合いながら5年間の計画づくりをしっかりと腰を据えてやっていただきたいと思いますし、我々も地域の中で「おらだ」って言ったときには私たちの地域のことを指していたのですが、なかなか私たちの地域が点でしか繋がってなくて、線なり面そして立体的に繋がってきていない実感があります。そこでやはり昔に戻るというわけではなくて、古きをたずねて新しい時代へと向かっていく国の指針だと思いますので、そこを今の時代に逆らわずに構想の中で集い合える米沢市らしさというのをきっちり会議の中でこれから見つけていきたいと思っています。

一言提案させていただきますが、基本目標4の住み続けたいと思える魅力的で持続可能なまちづくりという中に、やはり人づくりは地域づくりという昔からの言葉がありますけども、そういう人づくりの助成ができるような風土を作っていくというような文言も入れていただければありがたいと思います。

委員

少し幅が広すぎかもしれませんが、やはり米沢らしさということで精神面からのものづくりや草木塔の精神文化ということに力を入れていただきたいなと思っております。そうすることで魅力ができて観光にも繋がるのではないかなと思っております。それから大変な雪も台湾人は大好きですので、その魅力もまた一つよろしく願いしたいなと思うところです。

委員

KPIも交えた具体的な施策というのはこれからお示しいただけるということでこれからのご議論になると思いますが、基本目標の4番目が新たに設けられたということで、私個人としても非常にこの部分について楽しみにしたいという思いを持っております。こういった資料拝見させていただきながら、先ほどのアンケートの結果なども拝見して、やはり雪に対する懸念というのは昔から変わらずでもありますし、学生さんとしては一番気にかかる場所なのだろうと思っていました。大学生の方と時折お話をする機会がございまして、そういった時にもやはり学校やアルバイトから帰ってきてアパート暮らしだと誰の責任というわけでもなくて除雪車が通っていった後の雪を片付けるのが非常に大変だということもお話も聞いたことがあって、なかなかどういったローテーションを組めばいいのかとかそういう細かな部分っていうのはすごく難しいとは思いますが、これから楽しみにしていきたいと思っております。

一つだけもしお分かりになればお聞きしたかったのですが、確か以前に除雪車が通ったところをスマートフォンで来たか来ないか分かるよう

なそういう施策をこれからやると聞いた記憶がありました。除雪車に GPS をつけて今どこにいるとかという他の自治体でもやっているような施策を米沢市でも今度やるのかなというように期待を持っていました。なかなか私も会議に出席できていない中で質問するのも心苦しかったのですが、現状としてはいかがなのかなと思って、もしお分かりになる方がいらっしゃれば教えていただきたいです。

事務局

まだそこまでしっかりした制度化をしておりませんが、実証実験ということでここ 3 年ぐらい除雪車に GPS をつけまして、具体的にその見える化だけでなく作業がどうなっているのか、費用がどうなるのかというところの実証実験をしております。その結果を踏まえて DX を推進しておりますので、そういった見える化、除雪の効率化や除雪体制の効率などを目指しまして、IT を活用したスマート除雪などの取組みを今後していきたいということで検討しているところであります。

委員

とても個人的な背景になりますけれども、少し離れた実家に母親が 1 人で暮らしてしまっていて、除雪車が日中来たあとの除雪が母親だけでは少し大変なものですから、もし可能なタイミングが分かればそのあと片付けに行きたいという思いがございました。現在の除雪が不定期といえますか時間的に大幅なずれもありますので分かりづらいというところから、いいシステムだと思って期待しておりますので、ぜひ進めていただければと思います。

事務局

ただいまの件に関連いたしまして、デジタル化ではないのですが米沢市の除雪の中では「やさしい除雪支援」ということで、除雪については道路の両端に雪を押し付けるような除雪になるものですから、高齢者や身体が不自由な方のお宅になるべく雪を置かないようにするやさしい除雪というものもやっております。そのようなところもデジタル化が進みますと、見える化によってどうなっているか確認できるメリットも出てくるかと思っておりますので、今後進めていきたいと考えているところであります。

委員

雪の話でやはり雪の対策や雪の多さというのが不安だっという声がこの意識調査にもはっきりと出ていますので、雪の多さを不便に繋げないで、むしろ魅力につなげていくというのはとても大事なポイントになるだろうと思いました。また、公共交通に関しておそらく市民の不便だという回答が減るのは車を持っているからだと思うので、大学生や高校生が不安であると答えているというようなこともありますので、雪の対策と公共交通というのがこの基本目標 4 のところの KPI 等に反映していくような重要なものになるのかなと思いながら聞いていました。

質問が一つありまして、この資料 3 の 3-3 で追加されるこの子どもたちへの教育の充実ですが、ここでいう子どもたちへの教育というのは初等教育とかそういうところを念頭に置いたものという理解でよいのでしょうか。高校生、大学生、大学院生という対象はどちらかという基本目標 1 で主に扱っていて、基本目標 3 は米沢で生まれた子どもたちというそういう理解でよいのでしょうかというのが質問でした。

事務局

ただいま委員からのご質問におきましては、特に小中学生とか高校生の教育だけということでの項目として設定はしておりませんので、大学生などの郷土愛の育成というところも、この 3-3 の将来の子どもたちへの教育の充実の中に該当させられるかというところを関係機関と調整をしているところですが、小中学校の教育だけではなく高校生や大学生が将来戻ってきたいと思っていただけるような、魅力を感じていただけるような取組みも追加したいと考えているところです。この基本目標の 3-3 に入れるかどうかということも含めて現在検討しているところでございます。

委員

除雪の話題が出たのですが、まず一つの課題は業者さんが本当に人手不足でご苦労なさっていて、朝 3 時から 7 時までの除雪時間内に大雪が降った時はなかなか終われない事情もあったり、先ほどおっしゃっていた押雪軽減などのやさしい除雪も業者にはお達ししていただいているわけですが、路線によって、あるいはオペレーターによってといった言い過ぎかもしれないですが、大分除雪の仕上げに差があるように感じます。市でパトロールをかけるのが役割だと思いますので、市役所周辺は最近あまり走りやすくなってなかったり、裏道も途中で除雪を諦めざるをえなかったりするところも多々ありますので、やはり雪とは共生していかないといけないという考えから基本目標 4 にも絡んでくると思いますが、もう少し行政の方でしっかりパトロールをかけながら公平で公正な除雪を担っていただけるようにしていただきたいです。もう一つは、若い方々は高速道や国道の除雪に従事なさっていて、市道に従事している方々とやはり賃金の差が歴然で、市道の担当業者は人集めにご苦労なさっているというのが本当に大変だと感じていて、そこも課題の一つの市民全体、地域全体の問題でもありますのでよろしくお願いします。

委員

雪の件で委員の方からも発言がたくさんあるようですけれども、今回のアンケート結果で雪を非常に不安に思っているというのは転出者も含めてあらゆる世代で感じておられるということで、そちらを今回基本目標 4 の自然災害に備えるまちづくりで盛り込んでいただけたのはとてもよかったと思います。例えば、今やってらっしゃるか分かわりませんが、山形大学工学部 2 年生が米沢に入ってきた時のオリエンテーションで、米沢雪多いですが除雪もしっかりしていますというような PR ですか、転入者の方にもそのような雪に関する説明を丁寧にしていけば、皆さん住みよい街だと思っていただけるのではないかと考えております。

あと一つお聞きしたいのが基本目標 4 の 7 番目で、行政 DX の推進ということ掲げていただけていますが、DX とあらゆるところでそういう言葉が出てきて、DX の推進、ICT などの言葉が乱立しておりますけれども、私どもの職場でもこういった事業計画に DX の推進って書いて総務でやってくださいって言われてもなかなか進まなくて、こういう分野に長けている職員の方がいないと前に進みづらいという状況があります。米沢市の方ではこの DX の推進についてどなたか専門の職員を配置して、これから取り組んでいくことになるのでしょうか。または、各部

署から何名か選定してチームのようなものを組んで取り組んでいかれるのか、そういったところをお聞きしたいと思います。

事務局

DX につきましては確かに委員のおっしゃるとおり、ある程度専門的な知識がないと進められないという部分がありまして、私どもでは当課に情報システム担当という部署があり、そちらの職員が主に担っております。特に行政 DX につきましては、他の先進自治体の事例もございますのでそのようなものを参考にしながら、また事業者の力も借りながら進めていきたいと考えております。また、まだ具体的に申し上げられないのですが、今進めている DX の中で担当部署の担当者が集まって、委員のおっしゃったとおりチームを組んで業務フローの見直しも含めてどのようなシステムを取り入れていったらいいかというのを現在もやっておりますので、そういった部分で劇的にというのは難しい部分もございますけれども、少しずつでも DX を進めていきたいと考えております。

委員長

雪のことを委員の皆さんもおっしゃっていて、アンケートの結果を見ますと、やはり現実問題として雪の問題意識がかなり多いというのはもう否定しがたいところだろうと思います。今回掲げている米沢市の基本目標が誰に対して言っている目標なのかということも関係すると思いますが、米沢市のビジョンですから市民に向けた目標だという性質は絶対あるはずだと思います。そうであるならば、少なくとも資料3の5ページの4-1や4-2とかそういったところにはもう端的に雪というところを、少なくともそのレベルではもう明示したほうがいいのではないのでしょうか。米沢は何百年も雪降っているから大丈夫だということだと思うので、メッセージとして雪との共生などをちゃんとやっています、ちゃんとやりますというところは入った方がいいのではないかというのが私の意見でございます。

【8 閉会】